

2023 年度東北文化研究室例会

ツナガリの功罪

【趣旨】 東日本大震災以降、「絆」が強調されるようになった日本社会であるが、コロナ感染拡大によって「ツナガリ」の良し悪しが見直されている。そして、コロナ対策が緩和された今日、改めてヒトや社会の「繋がり」を考える時期にきている。

【日時】 2023 年 11 月 30 日（木）13 時から 16 時

13:00 ～ 13:30 田村光平 つながりの人類史
(東北大学 東北アジア研究センター)

13:30 ～ 14:00 辻本昌弘 交換と連帯：講集団の社会心理学
(東北大学大学院文学研究科)

14:00 ～ 14:30 大木一夫 言語変化論がおしえてほしいこと
(東北大学大学院文学研究科)

14:40 ～ 15:10 阿部恒之 連帯と排斥の感情心理学
(東北大学大学院文学研究科)

15:10 ～ 15:40 廣田香 東日本大震災における記憶とモノ
(東北大学大学院文学研究科)

—植物に着目して—

15:40 ～ 16:00 ディスカッション・質疑応答

【会場】 東北大学川内キャンパス文科系合同研究棟 135 教室

【問合せ先】 東北文化研究室 (担当：鹿又 022-795-6071)

yoshitaka.kanomata.d8@tohoku.ac.jp)